

大江首席交渉官代理による記者会見の概要

日時：平成27年2月3日（火）17：30～17：40（米国時間）

場所：米国ワシントンDC ナショナル・プレス・ビルディング内

【冒頭発言】

今回は、まず先週ニューヨークでベッター大使と、今週ワシントンに場所を移してカトラ一次席通商代表代行およびベッター大使と交渉した。それなりに進展はあったが、まだ事務レベルでやるべきことは残っている。TPP閣僚会議の前に、日米の市場アクセス交渉を閉じなければならないという認識を持っている。そのためには閣僚レベルでの交渉が必要だが、その前に事務レベルでやるべきことが残っている。少なくとも1回は事務レベルで協議することが次のステップである。

【質疑応答】

（記者）

前回の東京での交渉と比べて進展の具合如何。

（大江代理）

昨年9月に甘利大臣がワシントンDCを訪問した後の交渉では、毎回確実な進展があった。残っている問題のうち、易しい問題から片付いていくため、一番難しい問題が残されている。閣僚会議の結果、大きな進展なく決裂することは、残された時間を考えると避けなければならない。そのためには準備が必要である。

（記者）

あと一回か。

（大江代理）

最低一回は必要である。

（記者）

甘利大臣は月内と言ったが。

（大江代理）

閣僚会議が月内に行われるか否かは分からない。事務レベルでお膳立てができてから、閣僚会議は開催される。次のステップは事務レベルで交渉を行うことである点については合意した。

(記者)

次の事務レベルでの交渉時期は月内を想定しているか。

(大江代理)

お互いに宿題を持ち帰り、本国に報告した後に次の日程を決める予定。閣僚レベルもそうだが、事務レベルでも準備なく会合を開催しても仕方がない。次回の準備ができた後に開催日程を決める予定。

(記者)

ワシントンDCで大江代理と森大使が同じ時期に交渉することは過去にあまりなかったように思うが。

(大江代理)

最近別々になったこともあったが、元々は同じ時期に来て同じ時期に帰ることが多かった。今回は森大使が早くワシントンDCに来て交渉し、その間、私はベッター大使とニューヨークで交渉し、DCで合流した。

(記者)

この交渉手法は偶発的なものか。

(大江代理)

日本側がワシントンDCに来るときは別々の日程でも良いが、米国はカトラ一次席通商代表代行が両方とも担当している。別々の日程で交渉すると、米国側にとり効率的ではないので、原則としては一緒にやっている。

(記者)

ニューヨークを含めて計何日間交渉したのか。

(大江代理)

ニューヨークでは断続的に交渉したが、ニューヨークで数回交渉し、ワシントンDCでは2日間交渉した。

(記者)

今回、大江代理、森大使、カトラ一次席通商代表代行と一緒に交渉することはあったか。

(大江代理)

交渉は異なるが、段取りの打ち合わせや次のステップをどうするかについては一緒に話した。

(記者)

閣僚級で判断するためには、自動車と農産物を一緒に提示する必要があると思うが。

(大江代理)

最後にまとめるときは全体のパッケージとなろうが、自動車分野で譲るから農業分野で譲れという話ではなく、交渉はそれぞれで進めている。

(記者)

自動車分野と農業分野を関連させて交渉していると思ったが。

(大江代理)

農業分野につき、どこまで出来るかという議論をしており、そういった交渉はしていない。

(記者)

農産物につき、セーフガード等についても議論したか。

(大江代理)

全体がパッケージとなっているので、全体が決まらないと全てが決まらない。その前提で、仮置きしている問題もあるが、交渉の中身についての言及は控えたい。

(記者)

重要5品目も含めて議題しているか。

(大江代理)

中身についての言及は控えたい。

(記者)

一番頭を悩ませている問題は何か。

(大江代理)

残っている問題全てである。

(記者)

閣僚会合の前に事務レベルが集まる機会は、あと2回くらい必要という理解か。

(大江代理)

毎回ワシントンDCに来るたびに、今回で最後にしたいと言っている。相手があることなので、出来れば1回にしたいが、そうでなければ2回行う。残された時間があまりないので、何回も行ったり来たりはできない。次回協議する前に国内調整、宿題をしっかりとる必要がある。

(記者)

最後に残っている問題の難しさの背景如何。

(大江代理)

双方が国内で難しい問題を抱えている。

(記者)

残された時間につき、3月、春先等言われているが、今回で事務的なタイムラインの設定はあったのか。

(大江代理)

オバマ大統領の発言を前提に我々は議論している。

(了)